

鳥取大学における COVID-19 対策と健康スポーツ科目

教養教育センター准教授 瀬戸 邦弘 せと くにひろ

鳥取大学では COVID-19 の影響を鑑みて、春学期より「オンライン」「オフライン」を柔軟に併用する事になり、本部門においてもこの方針下で授業運営する事になっている。全国的な感染拡大から約1年が経ち、いまでは日本社会において「オンライン」や「オンデマンド」などの言葉やその仕様も一般的知識となったが、我々も昨年度に培った経験を踏まえて、この状況下で、さらに充実した授業が行えるように授業設計を改善し、展開する事になった。

まず、「オンライン」授業の仕様に関しては、専任教員間での授業設計の見直しをはじめ、教養教育センター長との質保証に関する相談を経て、マナバや遠隔会議システムを用いた 2021 年度版「複合型授業」の形を完成するに至っている。具体的には、マナバを各授業プラットフォームに据えて、出席や課題の管理を行いながら、①オンラインライブ配信、②録画した動画によるオンデマンド授業、③課題学習の 3 つの授業形態を準備し、授業担当者は回毎にその形態を選択し授業を行っている。ところで、現在、春・秋ともに学期始めの 2 週間は（県外から持ち込まれる）ウィルスへの対応として、非対面（オンライン）授業が実施されているが、幸いなことに、鳥取県は全国的に見ても感染者の増加傾向が緩い地域だったこともあり、本部門では上記期間以外は（基本的に）対面授業の実施が認められ、受講生にはリアルな空間における健康スポーツ科目の実践を味わってもらえた。

一方で、大学全体としてはオンライン授業の継続下にもあったため、自動的に対面授業を実施できたわけではない。昨年から、本部門では対面授業の安全な実施を遂行する為に「健康・スポーツ部門 授業運営指針」を策定し、独自の、そして積極的な感染防止策を講じてきた。たとえば、対面授業では手指消毒用のアルコール、マスク、体温計など必須の備品を運営側で



Figure 1 コロナ対策授業用具



Figure 2 コロナ対策授業風景

準備し、また、実技に特有の「飛沫」や「接触」による感染防止を徹底する為に、外部スピーカ付きマイク等をコロナ禍対面授業用のアイテムを準備し授業内で有効活用している。また、教える側だけでなく、受講生にも「参加する側」からの理解の共有、協力を求めるために「健康・スポーツ部門（対面）授業運営指針」を作成・配布し、徹底した授業空間における感染防止対策を励行している。

2021 年年末には、一旦沈静傾向に視えた感染状況であったが、ご存知のように新たな変異株であるオミクロン株による新たな拡大傾向にあり、COVID-19 は新たな局面に入ったと言える。しかしながら、この状況を冷静に分析し、来年度に向け新たな方策を講じて、受講生が安心して授業を受けられる環境を作っていきたいと考えている。

尚、今年度は集中講義科目においても感染拡大防止を最大限に考慮した結果、アクア 1（スクーバダイビング）、アクア 2（カヌー、ウィンドサーフィン）の実施が叶いました。一方でライフセービングは感染防止対策が難しく、知恵を絞ったが実施は困難と判断され、本年度は非開講となっている。

※本報告は山陰体育学研究に掲載された報告内容を一部加筆し、転載している。